

科目名	防災・減災の基礎			ナンバリング	REC242	授業形態	講義
対象学年	2	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	高木竜輔	担当教員					

授業の概要	この授業では、災害から自分たちの命と生活を守るための取り組みとしての防災・減災について学習し、自らの今後の生活に生かせるようにすることを目標とする。災害が頻発するような時代のなかで、自助・共助・公助の各方面に渡って災害対策を行う必要がある。これまでの災害に対する対応やそこからの復興過程を見ていくなかで、防災・減災の基本的な知識を習得し、自らがリーダーとなって地域社会のレジリエンスを高めていくことが求められる。						
到達目標	1. 防災・減災に関する基本的な知識を説明することができる。 2. これまでの災害とそこにおける防災・減災の取り組みを説明できる。 3. 予想されるハザードに応じた防災・減災対策を立案することができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	授業で出てくるキーワードについて、新聞や辞書などを通じて知識を得ておくこと。加えて、授業後には、参考文献で示している文献などを通じてさらなる理解を深めること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 防災・減災について関心をもち、それについて理解することができる。 2. 過去の防災まちづくりの取り組みについて理解することができる。 3. 自らの地域社会の防災上の課題を理解することができる。	1. 防災・減災について関心をもち、それについて批判的に理解することができる。 2. 過去の防災まちづくりの取り組みについて、その課題も含めて理解することができる。 3. 自らの地域社会の防災上の課題を理解し、防災まちづくりを立案することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
最終レポート	○	○	○				60%
小テスト・授業内レポート	○	○	○				20%
授業態度・授業への参加			○	○			20%

課題、評価のフィードバック	1. 授業ごとにリアクションペーパーを書いてもらう。疑問点や感想を書いてもらい、次週の授業でコメントする。 2. 学期末レポートについては、コメントをつけて返却する。
---------------	---

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	イントロダクション——授業の進め方・授業の仕方	講義の進め方、受講に際しての注意点について理解する。授業支援システムの使い方について理解できる。	
	第2回	災害とは何か	災害とは何であるかを、ハザードとの対比のなかで理解することができる。	
	第3回	さまざまな災害因:地震、津波、風水害	災害を生み出すハザードについて、そのメカニズムを理解できる。	
	第4回	災害による被害(1):地震	地震について、そのメカニズムと関連づけながらその被害を理解することができる。	
	第5回	災害による被害(2):津波、風水害	津波と風水害について、そのメカニズムと関連づけながらその被害を理解することができる。	
	第6回	ハザードマップを読む	津波災害を念頭においたハザードマップについて、その読み方を理解することができる。	
	第7回	被害想定を読む	これまでの学習を踏まえて、内閣府の中央防災会議の読み、防災上の取り組みについて理解することができる。	
	第8回	地区防災計画を立てる(1)	地区防災計画の制度について理解することができる。	
	第9回	地区防災計画を立てる(2)	いわき市を念頭に地区防災計画の実情と課題について理解することができる。	
	第10回	防災まちづくりの必要性(1)	阪神・淡路大震災における防災まちづくりの取り組みについて理解することができる。	
	第11回	防災まちづくりの必要性(2)	東日本大震災における防災まちづくりの取り組みについて理解することができる。	
	第12回	自助、共助、公助	防災・減災の現場における「自助」「共助」「公助」の内容とその関係について理解することができる。	
	第13回	事前復興	将来起こりうる災害を想定し、その上での取り組みとしての事前復興について理解することができる。	
	第14回	防災教育の必要性	学校現場を中心とした防災教育の現状と課題について理解することができる。	
	第15回	まとめ	これまでの議論を整理し、自らの地域における防災まちづくりについて考え、その立案に向けて実践していくための方法について理解することができる。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答に基づき授業をおこなう。授業終了後にはリアクションペーパーを執筆してもらい、翌週の授業でそれに対してコメントする。授業のなかで、関連する小課題を2～3題ほど出すことがある。		
授業外学習の指示		事前にmanabaにてシラバスを提示するので、それをみて分からない用語、内容を確認しておくこと。配付資料を中心に授業の復習をおこない、場合によっては参考資料などを読むこと。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	教科書は使用しない。
参考書	特になし。
参考URLなど	
その他	